
後悔

藤田財閥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

後悔

【Zコード】

N3140A

【作者名】

藤田財閥

【あらすじ】

思いついた事を書いたのであらすじなんて、ありません

嫌な記憶は忘れ、楽しい記憶だけで、今を満足した。

流れを変える事無く流れ着いた場所には何も見えなくて。

「今の結果に君の最終目的地は何もない、君の記憶はいつもあの日あの時あの場所で楽しかった、それだけだろ、確かにそれは記憶だから仕方ないけどだからと言つていつも同じ昔話で満足してる君に何かしてあげる事もないだから、このまま終わりを告げます、今の状態を満足して安定と言つ言葉に安心してる君に未来なんて、あるはずがない

だつて一週間前の記憶を遡つて見るけど何も出て来ないから昔の楽しかつた事だけを残し今して来た事なんていつの間にか消えるんだろ、何時になつたら成長できる?気付いた時には遅過ぎて終わり、妄想の中で動いてる自分に満足した君は今思えば結構悲しい人なんだね、あと最後に一つ教えてあげるけど、君にこんな事を言つたけど、みんな一緒だから、繰り返す結末は君だけじゃないから、だからゆつくり寝てください、永遠に続く無の意識のなかで、さようなら。

僕の意識の中で囁く声を聞きながら後悔した。

確かに走馬灯の中で起こつた映像には若い頃の自分しか映らなかつた、歳を重ねて行くにつれて、希望を無くし、人によつて作られたレールに乗り歩き続けた、レールに乗つて向かう先に何があるかなんて忘れ、ただ安定を求めた時から、記憶が途絶え始めた。もうすぐで意識の存在が失い、やり直す事が出来ないまま、僕の人生に終わりを告げる。

「あ~今日も疲れた明日も仕事が早いからもう寝るとするか
この言葉を何百、何千回も、言つた結果、現実の定義にどつぶりと、
つかり続けた一人の男の最後の一日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3140a/>

後悔

2011年1月19日04時18分発行